

カラマツハラアカハバチ <生態など> <被害> <防除> <文献>

夏にカラマツの葉を集団で食べるイモムシ（幼虫）。最大長約18mm。体は小さなときは黄緑色から灰色、成長すると背中が暗くなる。頭部は黒い。

カラマツ林でときどき多発する。被害はときに長期化し、10年続いたこともある。食害により直接木が枯れることはほとんどない。このため防除は普通必要とされない。なお、成虫は蜂だが人を刺すことはない。



1. 成虫, 1981/7. 胆振地方, カラマツ.



2. 中～終齢幼虫. 1981/8. 胆振地方, カラマツ.



3. 葉を食べ尽くして飢えた幼虫. 1981/8/21.

胆振地方カラマツ林.



4. 繭殻, 小哺乳類による捕食. 1986.



5. 被害. 1979/8. 苫小牧市, カラマツ林.

[戻る](#)

【学名】 *Pristiphora erichsoni*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ハバチ科 (Tenthredinidae)

【分布】 北海道, 本州; ユーラシア, 北米.

【生態】

宿主: カラマツ属 (カラマツ, グイマツなど)

年1回発生。北海道内の成虫発生時期は6月中下旬, 7月中旬, 8月中旬と変異がある(順に1936, 岡本; 1990, 七飯町観察結果, 原未発表; 1981, 東浦, 鈴木)。それに応じて幼虫の発生時期も変化し, 食害のピークは早いときは7月下旬頃, 遅いときは8月下旬頃になる。

幼虫は枝先の葉(長枝葉)はほとんど食べない。十分成熟した幼虫は地上に降りて落葉中や土の浅いところに潜り焦げ茶色の繭になる。繭内で幼虫で越冬する。翌春~夏に蛹になる。幼虫のまま繭内に何年もとどまる個体もある。

成虫はほとんどが雌で, 単為生殖をする。まれに雄成虫が現れるが, 繁殖には関与しないようである。雌成虫は長枝の枝内に卵をまとめて埋め込む。1雌あたりの産卵数は約4-5個。産卵された長枝は先端が曲がるのでわかりやすい。

発育ステージ	~3月	4	5	6	7	8	9	10	11~
成虫・卵				..○	○○○	○○..			
幼虫(摂食・成長)				..	■	■	■	■..	
幼虫(繭内, 休眠)	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++
蛹(繭内)				..◇◇	◇◇◇◇	..			

【天敵】

天敵としては寄生蜂, 寄生蠅, 病原微生物, 鳥類, 小哺乳類が知られている(1991, 東浦, 中田)。この中で小哺乳類が有力な天敵で, エゾアカネズミ, ヒメネズミ, トガリネズミ類が含まれる。小哺乳類による繭の捕食率はときに90%近くに達するが, 場所により捕食率は大きく異なる。幼虫期の餓死によりほとんど死滅することがある。

【被害】 [戻る](#)

カラマツ林でしばしば多発する。被害はときに10年近い長期に及ぶが, 個々の林ではたいてい3年前後で終わる。

北海道では1930年頃に新冠町で初めて被害が記録され, 次いで各地で局所的な被害が発生した(1978, 上条)。広域被害は1977~1986年にかけて胆振や日高地方で初めて発生した。1995年に知内町で始まった被害もまた長期化・拡大化し, 2001年現在継続中である。

食害により直接, 木が枯れることはほとんどない。長枝葉を食べ残すためと考えられている。ただし, 台風の影響や穿孔虫の二

次被害などが加わった場所では枯死木の集団枯損が観察されている（1983，菅藤；1990，東浦）。

【防除】 [戻る](#)

幼虫期の農薬（MEP乳剤）の空中散布による殺虫率は90%前後と高い。しかし，増加率が高いため，少数の生き残りからすぐ元の状態に戻る場合もある（1982，池ノ谷；1991，東浦）。また，上記の胆振・日高地方の被害では農薬散布を実施したが被害が10年近く続いたことから，農薬散布により大発生を終息させることは難しいと考えられる。

食害された木は一時的に衰弱するため，穿孔虫による二次被害を受け枯死する場合がある。発生時は木をさらに衰弱させないよう，強度の間伐や隣接地での皆伐など環境を著しく変える施業はしないほうがよいと考えられる。伐倒木や風雪害木は穿孔虫の繁殖源となるため早期に搬出する（詳しくはカラマツヤツバキクイムシを参照）。

グイマツ雑種F1やグイマツはカラマツハラアカハバチの食害に抵抗性がある（1988，東浦；1991，宮木，東浦）。

【文献】 [戻る](#)

1936. 岡本得一. カラマツハラアカハバチの天敵について. 日本林学会誌, 18: 66-73.

1978. 上条一昭. 林業相談カラマツハラアカハバチの生態と防除. 光珠内季報, 36: 20-21. (過去の被害記録のとりまとめなど)

1980. 上条一昭, 東浦康友, 鈴木重孝. カラマツハラアカハバチの薬剤防除試験. 光珠内季報, 41: 2-4.

*1981. 東浦康友, 鈴木重孝. カラマツハラアカハバチの防除基準. 北方林業, 33: 180-183.

1982. 池ノ谷重男. カラマツハラアカハバチ防除の適期と効果. 北方林業, 34: 75-78.

1983. 菅藤雅克. カラマツハラアカハバチの発生の広がりと被害枯損木の実態. 北方林業, 35: 285-289.

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

*1988. 東浦康友. カラマツハラアカハバチの産卵に対するカラマツ類の抵抗性. 日本林学会誌, 70: 461-463.

*1990. 東浦康友. 1977年～1986年に大発生したカラマツハラアカハバチによる被害と防除（1）大発生の推移と被害. 北方林業, 42: 42-46.

*1991. 東浦康友. 1977年～1986年に大発生したカラマツハラアカハバチによる被害と防除（3）薬剤散布の効果. 北方林業, 43: 98-100.

*1991. 東浦康友, 中田圭亮. 1977年～1986年に大発生したカラマツハラアカハバチによる被害と防除（2）天敵による死亡率. 北方林業, 43: 65-67.

1991. 宮木雅美, 東浦康友. グイマツ雑種F1はカラマツハラアカハバチにも強い. 北海道の林木育種, 34: 27-30.

*1992. 東浦康友, 宮木雅美. 虫害にも強いグイマツ雑種F1 - カラマツハラアカハバチに対する抵抗性 -. 光珠内季報, 86: 15-18.

1994. 東浦康友. カラマツハラアカハバチ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 342-343. 養賢堂, 東京. (生態, 形態)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツハラアカハバチ habachi/karahara/
kaisetu.htm

「概要」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/23.

「詳細」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/9/3.

higai1.JPG, seichu.JPG, yochu1.JPG, yochuue.JPG

「写真 1～3, 5」 上条一昭, 北海道立林業試験場, 1979～1981.

mayukara.JPG

「写真 4」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1986.